

8 豚疾病コントロールと農場バイオセキュリティ事例

5

山城家畜保健衛生所

○川島康成 岡田めぐみ

10

【はじめに】母豚120頭規模の一貫経営養豚場において、子豚の疾病、発育不良、淘汰及び死亡事故が増加し、生産性が著しく低下。今回、バイオセキュリティの観点から包括的な改善を進めた事例について報告。

15

【材料及び方法】現状の①飼養管理、②消毒、投薬、ワクチン、治療等の衛生対策、③当所で過去に行ったサーベイランス等検査、病性鑑定、④民間機関による検査結果を踏まえ、改めて病性鑑定を実施し、影響を及ぼしている疾病を検索。農場、動物医薬品販売業者及び管理獣医師、動物医薬品等製造メーカーと協議し、方針を決定。また、外部接点である食肉処理施設へも協力を求め、当所は以降、定期的に立入、病性鑑定を実施し、改善状況の確認と必要な追加対応を進めた。

20

【結果】影響を及ぼす疾病は呼吸器疾患、下痢、関節炎、心膜炎及び肝包膜炎に大別され、それら疾病は離乳直後～肥育前期の生後1～2か月齢の間に集中して発症する傾向。疾病毎の原因と発症の起点、これら疾病のコントロール方法について農場の理解が進んだ。

25

【考察】飼養環境が快適化、農場の衛生管理技術もレベルアップし、子豚の疾病の減少、発育不良の改善、淘汰及び死亡事故はピーク時の半分以下に減少。生産～出荷まで一貫したバイオセキュリティが確立され、豚流行性下痢、他伝染性疾病の侵入防止に繋がった。

30

